



# 刀匠 竹花 一貫齋 繁久

武蔵武士発祥の地にて日本刀の心と業を伝える



## 履歴

全日本刀匠会元理事、同関東支部長を歴任平成20年同支部長を退任

昭和24年2月13日生まれ

昭和47年東京都板橋区在住の酒井繁政方入門

昭和53年文化庁承認

昭和54年新作刀展にて初入選以後優秀賞、努力賞など多数を受賞

昭和58年埼玉県比企郡滑川町に鍛錬所を移設現在に至る。

平成19年薫山賞を受賞する。

平成26年現在においても同町にて刀身彫りのある日本刀、及び武道専用刀、玉鋼刃物を制作している。

## 作風について

★相伝備前の長義風の大切先、大乱れをもっとも得意としておりますが、その他の作風も行います、又、刀身彫りを得意とし龍や不動明王等の刻も行い、古作刀の写し物等、どのような物でも制作いたします。※国宝や重要文化財の名品の模写等多くの実績があります。

★刀身彫りの始まりは、(刀匠が刀に彫る事を「刀匠彫り」と言います)古くは鎌倉時代からありまして、それは侍が戦場へ出陣する時に武運長久を願う信仰から発した物で命を賭ける戦いに人間の力だけでは遠く及ばない事に祈願したことが始まりでした。江戸時代に入ると徳川家康の天下泰平の時代になり大きな戦いがなく平和な時代になったことにより華麗な物が要求されるようになりました。そこで、財力のある武士・大名や商人が高価な特注品を財力によって、刀身彫りのある刀を刀匠に造らせて**自分の力を誇示**するようになりました。そのような刀の多くに彫り物が刻され戦いの信仰による彫刻から装飾的なものになっていったのです。

★時代の需要。彫刻の注文は、武道を行う方とコレクションとしてより良い物を求める方々の2通りがほとんどで、還暦や古希などの記念事、また誕生や成人などの祝い事・家宝・お守り等になります。刀身彫りでの昇龍などは人生・商売・成長等がすべて昇り調子になるように願いを込めて制作される方が多く、また刀の中心には注文者の注文銘を入れることができます。例) 応〇〇氏需(〇〇氏の求めに応ずる)、〇〇家重代等です。

★平成20年より販売開始の居合道・抜刀道専用の日本刀「本3枚業物鍛刀」は、武道用の刀として美よりも実用を重視した刀で、最高の切れ味と曲がらない、刃がねばい刀となります。すでに多くの本物の侍を目指す平成の武人たちに好評を得ています。古来の上級武士、武芸者のように自分専用の**完全な注文刀**で制作してください。大会で腕が同等の場合には、最後は道具の性能差で旗があがりましょう！。

